

**杜陵**  
**だより**  
第3-1号

発行: 岩手県立杜陵学園  
(児童自立支援施設)  
〒020-0124 盛岡市  
岩手県盛岡市  
岩川二丁目3番1号  
電話: 019-641-3365

# 巻頭言

岩手県立杜陵学園長 蛭田嘉男

コロナ禍二年目となり、昨年度に引き続き日々の体調管理に細心の注意を払いながらの日々の生活が続いております。また、学園生活前半の一大イベントである全日本少年野球大会の地区大会も中止となり、昨年度行った北東北三県との代替試合も行うことが出来ず、学園OBとの対抗試合をもって今年度の杜陵学園野球部は終了しました。

生活環境が限られている当園の場合は一年を通して様々な行事をその時々々の目標とし、それに向けて子供たちとともに活動を行っています。豪雨の中の遠足やOBとの試合など普段の生活では見ることが出来ないような子ども達の頑張りや充実した表情に行事の持つ意味やその効果を実感しました。

ただ一方で、子ども達の生活の大半は限られた学園という空間の日課であり、子ども達にとっては単調に感じられるかもしれないと考えます。その中でも、職員は子ども達の様子を細かに観察し、共有し微調整しながら対応するというように、日々試行錯誤の連続です。最近では岩手県立大学の狩野先生の御協力をいただき、新たな支援プログラムに取り組むといったことや、食育支援（「非行問題第二二七号」全国児童自立支援協議会 参照）や退園後のアフターフォローの充実などその時々々の子ども達の状況や社会のニーズに応じた形で支援の在り方を模索しています。

ワクチン接種は少しずつ進んでいるもののコロナの終息の兆しはまだ見え、豪雨や猛暑等気候変動にも注意が必要です。今後とも対外的な行事は慎重にならざるを得ない状況であると考えます。

昨年度は実施しなかったプールや県内マラソン大会参加等子ども達の成長の機会となる体験については職員が知恵を絞り確保していますが、同時に行事と日々の生活のバランスを改めて考え直すことも必要となるかもしれません。学園の支援の基は日々の生活支援であり、日課の目的や子ども達の生活のルールの意味、個別支援の在り方など、その原点に立ち返り、職員とともに検討していく必要があると感じております。

# 遠足

今年度の遠足は、六月四日に盛岡市の藪川にある「安俱里まほら岩手」での実施となりました。新型コロナウイルス感染症の流行で、様々なところで行事の中止や延期が行われている中ですが、実施できることの幸せを感じながらの遠足になりました。当日はあいにくの雨でしたが、木のスプーン作り、ヒメマス釣り・つかみどり体験を行いました。仲間と楽しみながら、普段は中々できない貴重な経験をしました。その中でもヒメマスのつかみみどりが一番盛り上がりました。

魚の泳ぐ速さに圧倒され、つかむことに苦戦しました。全員がつかみどりを成功させることを目標に、子どもたちは夢中になり、服が濡れることもかまわずに、一生懸命になっている姿が印象的でした。つかみどりができた児童は他の児童を手伝い、魚を生け簀の隅に誘導するなどして、最終的には全員がつかみどりを成功させることができました。

昼食はバーベキューで、沢山のお肉やご飯、お野菜に加え、施設の方のご厚意で、キノコ汁や貴重なヒメタケという食材までご馳走になりました。子どもたちも満足そうな表情を浮かべ、充実した昼食となりました。

後日、子どもたちは振り返り作文を作成し、自分の行動をしっかりと総括できました。作文を通して、遠足で学んだことや今後に生かしたいことを見つけたことが伝わりました。

(熊上)

# 保健食育指導

杜陵学園では、養護教諭、栄養士の先生のご協力を得ながら、様々な保健・食育指導を行っています。夏休みには手洗い指導と箸の持ち方指導を行いました。手洗い指導では、綺麗に洗ったつもりでも爪の間や手のひらのしわなどに洗い残しがあり、細かい部分に汚れが残っていることがわかります。汚れを確認しながら、丁寧に落としていくと、普段の手洗いが不足していたことに気付きました。新型コロナウイルス感染症の流行もあるため、子ども達も真剣な表情で学んでいました。

また、保健指導担当では、毎月実施している嘱託医の診察について調整したり、理容店の方が子どもたちの髪を切ってくれる日が毎月ありますので、この日程調整等を行ったりしています。このほかに、健康面に関することについて指導をしたりしています。今年は暑い日も多いため、スポーツ等の間にもこまめに水分補給の促し等をして熱中症対策にも力を入れていきます。今後も子ども達が安心、安全に学園での生活ができるよう支援に励みたいと思います。

(高橋)

# 野球OB戦

今年度の杜陵学園野球部は、「連覇」今の自分ができること」というスローガンを掲げ、活動を開始しました。チームの状況は、野球経験者が少なく、昨年度の杜陵学園野球部を経験した児童も一人しかいない状態であり、モチベーションは今一つという状態からのスタートでした。練習中の児童間の意見の対立も多く、一時間の練習を無事に終わらせることができたかどうかで、悩んだ時期もありました。それでも、一生懸命に野球に取り組み児童が中心となり、野球日課を続けることで、児童それぞれが成長し、チーム全体も成長していたと思います。

六月に入ってから、「試合を意識した練習をしたい」と申し出る児童も多く、監督として、他県の児童自立支援施設とどこまで戦えるのかと楽しみにしていました。

しかし、昨年度に引き続き、野球大会が中止となってしまいました。中止の知らせを聞いて、練習の成果を発揮する場が欲しいと思っていました。他県の児童自立支援施設でも同じ思いだったと思います。ある県の担当者から、交流会の提案がありました。児童の安全の確保を最優先に考えた結果、今年度は交流会を実施せず、杜陵学園OBとの試合を最後に、野球日課を終了することとしました。児童も残念に思っているようでしたが、OB戦に向けて気持ちを切り替え、勝つことを目標に練習に励みました。

児童の日々の頑張りや思いが通じたのか、当日は晴天に恵まれ、白熱した試合となりました。OBチームは、ほとんどが野球経験者という、まさに強敵として、相手をしていただきました。試合中は、チームメイトのミスがあっても責めることなく、自分のプレーに集中したスローガン通りの戦いだったと思います。ピンチも全員の負けない気持ちで切り抜け、最終的に九対八で勝利を収めることができました。

このOB戦は、数多くの方々のご理解と応援があつて実施することができました。今後も、スポーツを通じて児童の良さを十分に引き出し、成長につなげられるよう支援致します。応援よろしくお願ひします。(岩脇)

# 新任職員紹介

今年度着任された先生方を紹介します。

## 園長 蛭田嘉男

これまで関係機関の職員として長年学園の変遷は見てきましたが、杜陵学園での勤務は初めてです。児童福祉施設の在り方も大きく変わり、時代に応じた支援を心掛けていきたいと思えます。

## 主事兼職業指導員 千葉将也

新卒で杜陵学園に勤務させていただくことになりました。右も左もわからない中ではありますが、子ども達が入所して良かったと思えるような支援が出来るように、先輩方と力を合わせて頑張ります。

## 分校・分教室教諭(副校長) 觸澤公孝

今年度赴任しました、觸澤公孝と申します。体を動かすことが好きなので、早く仕事に慣れて、児童生徒とともに活動していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

## 分校・分教室教諭(理科) 浅沼美咲

子どもたち一人一人に寄り添い、それぞれにあったやり方で楽しく授業をしていきたいです。よろしくお願ひします。

## 分校・分教室教諭(養護教諭) 泉かおり

これまでの勤務校との様々な違いを感じ新鮮さと戸惑いの毎日です。子どもたちが成長できるように、保健の面からも支援していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

## 分校・分教室教諭(国語) 手島光彦

子どもたちの成長を手助けできるように、一緒にいる時間を大切に、頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

## 児童入所状況

月	4	5	6	7	延計
月初人数	6	8	8	8	
月中入所	2	0	0	0	2
月中退所	0	0	0	0	0

(単位：名)

皆様からのご意見・ご感想はインターネットで受け付けております。

<http://www.pref.iwate.jp/info.rbz?nd=423&k=3&pnp=17&pnp=61&pnp=423>

## 行事予定(8月~12月)

- 8月：2学期始業式、夏休み明け実力テスト
- 9月：中間テスト
- 10月：学習発表会
- 12月：2学期終業式、クリスマス会、冬季一時帰省

## 編集後記

慣れない編集作業に四苦八苦しながらも、なんとか杜陵だよりを完成させることができました。編集作業を通して、今年度の出来事を振り返る良い機会となり、改めて子どもたちの成長を感じることができました。今後も、まだまだ多くの行事を控えておりますので、子どもたちの充実した日々をお伝えしていければと思います。今後とも御支援、御協力のごほうよろしくお願ひします。

(千葉)